ボーダレス・アートミュージアムNO-MA企画展

絵になる風景

Scenic Depictions of Picturesque Scenery

2022年8月11日(木・祝)—11月6日(日)11:00—17:00

休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日休館)　観覧料：一般300円(250円)高大生250円(200円)

※中学生以下無料、障害のある方と付添者1名無料　※( )内は20名以上の団体料金

古谷秀男
タイトルなし
2006

1957年、16歳で開拓移民としてブラジルに渡り、1990年頃に帰国、還暦を過ぎた2005年、入所していた奈良県にある福祉施設で、職員の勧めにより絵を描きはじめた。ブラジルと日本の両国で過ごした体験や感覚、記憶を基に、空想を織り交ぜたストーリー性のある絵を多数描いた。

主催：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～、京都新聞　後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会　協力：近江八幡観光物産協会、織り人(Orijin)、マエダクリーニング仲屋店、しみん.ふくし滋賀、生活介護事業びーと、大和高原 太陽の家

畑中亜未
《ライトアップ(1灯)》
制作年不詳

自宅ベランダのガーデンランプが夜に自動点灯したことがきっかけで、「光るもの」に強い関心を抱くようになった。以降、白熱電球や街灯などの照明器具から、稲光やスーパームーンといった自然現象にいたるまで、光るものなら何でも次々と絵にしていった。

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA企画展

絵になる風景

Scenic Depictions of Picturesque Scenery

2022年8月11日(木・祝)—11月6日(日)11:00—17:00

休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日休館) 観覧料：一般300円(250円)高大生250円(200円)

※中学生以下無料、障害のある方と付添者1名無料 ※( )内は20名以上の団体料金

このチラシの文字データに
アクセスできます。

風景は人によって異なる現れ方をします。その土地に生まれたのか、旅行者なのか、懐かしいふるさとなのか、いつまでも見ていたい、そんな眺めなのか——その人の出自や思い出の数だけ異なった形で、風景はそれぞれの心の内に現れます。
また、風景は留まることがありません。日々、町並みは変わっていきますし、天災や戦争が一瞬にして景観を奪うこともあります。それらは、建物や自然環境の物質的な変化であるだけでなく、その風景に接した人々が寄せてきた思いや、蓄積してきた記憶といった心情の変遷や喪失でもあります。
風景を描くこと。それは変化したり、失われたり、忘れられたり、うつろっていく世界を、絵という画角の中に留めていく作業といえます。風景の描き手は、外の景観を心の内に捉え、自らの身体と画材を通して、再び外に放出するという、往復を繰り返します。その中で、描き手の内と外は分けがたく混じり合い、混合や融和の果てに、風景は絵になっていきます。
風景を描くということを誰もが一度はしたことがあるはずです。またそれは、美術の歴史の中でもずっと昔から続く営みです。人間にとって、大切な画題である風景。本展では、「絵になる風景」をテーマに7名のアーティストの作品を展示します。

Scenery appears in different ways to different people. Whether one was born there or is a traveler, whether it is a nostalgic hometown or is a view that one would like to see forever – a scenery appears in the mind of each person in different ways depending on one's origins and memories.
Scenery is never static. Townscapes change day by day, and natural disasters and wars can take away the scenery in an instant. These are not only material changes in buildings and the natural environment, but also transitions and losses in the feelings and accumulated memories of the people who have come into contact with the landscape.
Painting scenery. It can be said that it is a process of capturing the changing, lost, forgotten, and shifting world in the angle of view of a painting. The painter of landscapes repeatedly goes back and forth between capturing the landscape outside their mind and releasing it outside again through their body and painting materials. In the process, what is internal and external to the painter become inseparable, and at the end of the mixing and merging, the landscape becomes a painting.
Everyone must have painted a landscape at least once. It is an activity that has continued throughout the history of art. Scenery is an important subject for human beings. This exhibition presents the works of seven artists under the theme of "Scenic Depictions of Picturesque Scenery".

衣真一郎
《棲たわる風景》
2021-22

衣が描く絵のベースは、生まれ育った群馬県の山並みや田畑などの風景。そこにはシンプルな形と色に変換された、古墳や静物、家といった風景的要素が散りばめられ、一枚の絵になっている。

ドゥ・セーソン
《モン族の暮らし ～日常の風景～》
2010-2017

タイの山地には、ベトナム戦争後、ラオスを追われる形で逃れたモン族が住んでいる。もともと文字を持たなかったモン族は、民族の歴史や文化の記録手段として刺繍を用いてきた。モン族としてのルーツを持つドゥ・セーソンもまた、幼少の頃から針と糸を持ち、数々の記憶を紡いでいる。

障害などを理由にNO—MAに行くか迷っている方へ

「さわって楽しめるものはある？」「これが苦手なんだけど大丈夫？」「静かにしなくてもいい？」など、あなたやあなたの周りの方が気になっていることや、必要なサポートを教えてください。合理的配慮の観点から、できる限りの情報提供やスタッフによる対応を行います。
なお、本展では、見えにくい方や聞こえにくい方、字を読むのが苦手な方に向けての「情報保障」や、さわって楽しむ展示物を準備しています。
詳しくはQRコードからご確認ください。

訪れやすい美術館を目指し
取り組んでいること

出展作家

古久保憲満
Kokubo Norimitsu

衣真一郎
Koromo Shinichiro

ドゥ・セーソン
Du Sae Song

畑中亜未
Hatanaka Tsugumi

福田絵理
Fukuda Eri

古谷秀男
Furutani Hideo

三橋精樹
Mitsuhashi Seiki

関連イベント

"秋の沖島を描く"写生会

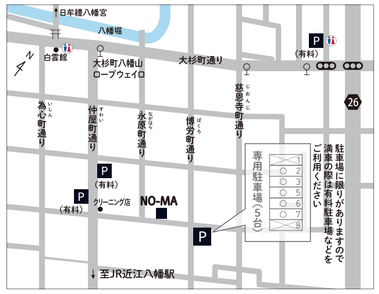
琵琶湖に浮かぶ自然豊かな沖島へ渡り、出展者と一緒に島内を散策。
秋の沖島の風景を描く写生会に参加しませんか？
堀切港まではバスでご案内します。
講師：衣真一郎(画家、本展出展者)
日時：10月29日(土)9:00–18:00ごろ
集合：NO-MA
定員：10名(要予約)
参加費：無料 ※NO-MA観覧料と乗船料(往復1,000円)が別途必要です

お問い合わせ

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
〒523-0849
滋賀県近江八幡市永原町上16(旧野間邸)
TEL/FAX：0748-36-5018
Email：no-ma@lake.ocn.ne.jp
URL：http://www.no-ma.jp

本展における新型コロナウイルス対応については、
当館ホームページ、または電話にてご確認ください。

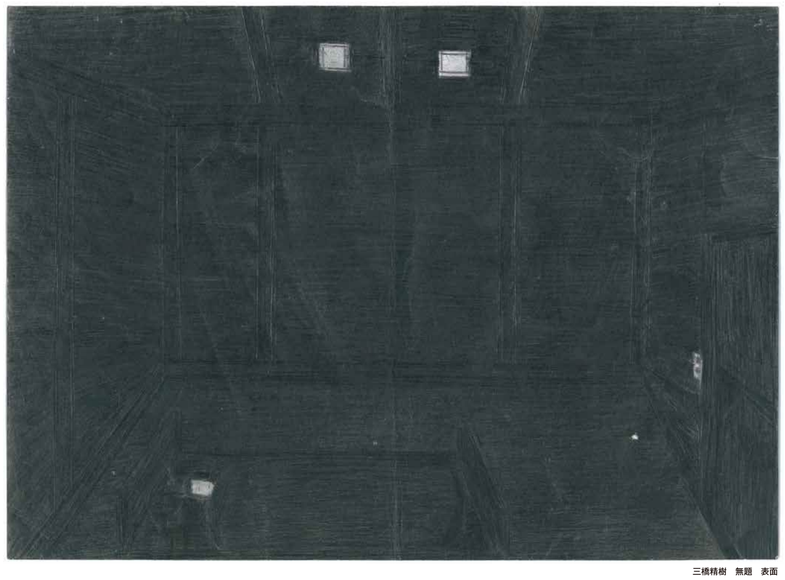
NO—MA
ウェブサイト



アクセス

・電車・バス：JR琵琶湖線 近江八幡駅北口から近江鉄道バス[長命寺線(6番のりば)]→乗車 約10分→バス停[大杉町八幡山ロープウェイ口]下車→徒歩 約8分→NO-MA
・車：名神高速道路 竜王IC→約25分→NO-MA
※駐車場に限りがありますので満車の際は有料駐車場などをご利用ください。
・駅からレンタサイクル：駅リンくん近江八幡店(近江八幡駅北口)→15分→NO-MA
・駅から徒歩：近江八幡駅→約30分→NO-MA

近江八幡駅からの
ルート案内動画



三橋精樹　無題　表面

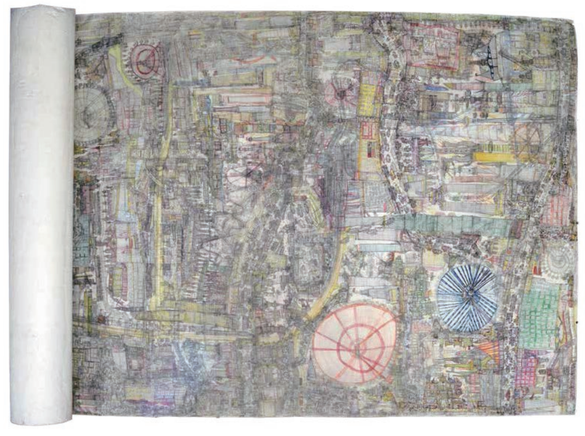
三橋精樹　無題　裏面

三橋精樹
無題
制作年不詳

一見すると黒々とした平面のように感じられるが、じっくりと覗き込むと、そこには緻密に描写した光景が広がっている。絵の題材は、幼少の頃の記憶や青年期に旅行で訪れた場所、テレビ番組で流れたワンシーンなど多岐にわたる。また、裏面には主にカタカナで絵の内容が詳細に綴られている。

福田絵理
《部屋とひとがた、その他のなにか》
2021-22

おぼろげな室内空間を描いている。窓どうっすら漏れ出す光は、向こう側の世界があることを期待させる一方、同時に不穏な気持ちも呼び起こす。「現実ではなく、内側を描いている」と福田はいう。



古久保憲満
《3つのパノラマパーク 360度パノラマの世界「観覧車、リニアモーターカー、ビル群、普現末、鉄道プリッジ、郊外の街、先住民天然資源のある開発中の町」》(部分)
2011–16

関心を寄せる物事を次々に取り入れ、社会情勢なども組み合わせながら描く、本展で展示する10mの絵巻物は、古久保が高校一年生から5年半かけて制作した、彼が描いた絵の中でもっとも巨大な作品である。